

世界の諸地域—ヨーロッパ州

本単元で育成する資質・能力

【生きて働く基礎学力】

日 時 : 令和2年9月25日(金)

場 所 : 1年4組教室

学年・学級 : 1年4組37名(男子21名 女子16名)

単元観

本単元は、世界の諸地域の中のヨーロッパ州について学習する単元である。世界の諸地域の学習について、中学校学習指導要領(平成29年告示)では、次のように示されている。

次の①から⑥までの各州を取り上げ、空間的相互作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

①アジア ②ヨーロッパ ③アフリカ ④北アメリカ ⑤南アメリカ ⑥オセアニア

ア 次のような知識を身に付けること

(ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。

(イ) ①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) ①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し表現すること。

また、学習指導要領解説には地球的課題について、「グローバル化する国際社会において、人類全体で取り組まなければならない課題、例えば、持続可能な開発目標(SDGs)などに示された課題のうちから、生徒が地理的な事象として捉えやすい地球環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題などに関わる課題を取り上げることを意味している」とある。

本単元は、学習指導要領に②で示されたヨーロッパ州を扱ったものである。ヨーロッパ州では、EUを結成し、ヒト・モノ・カネの移動が自由になるなど地域統合が進んでいる。しかしその反面で、イギリスがEUを離脱したり、ギリシャ通貨危機のように1国の経済危機がEU全体の問題となったり、地域統合の課題もクローズアップされてきている。

そこで本単元では、前の単元で学習をしたアジアと絡め、「東アジア共同体の実現可能性を探ろう」という単元を貫く課題を設定し、地域統合のメリットとデメリットを学習する。

小学校

学習なし。中学校の新規学習内容。

中学校1年

アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の各州を取り上げ、空間的相互作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、知識・技能及び思考力・判断力・表現力を身に付ける

本単元において育成しようとする資質・能力との関わり

本校で育成しようとする資質・能力は以下の5点である。

【知識及び技能】 ①生きて働く基礎学力 ②コミュニケーション能力
【思考力、判断力、表現力】 ③課題発見、解決力 ④豊かな表現力
【学びに向かう力、人間性】 ⑤思いやりと協調性(忍耐力)

この中から、本単元においては、次の資質・能力の育成に重点を置く。

①生きて働く基礎学力

身につけた知識や概念を活用し、課題を解決する力を育成する。

生徒観

本学級の生徒の1学期期末試験の結果は以下の通りである。

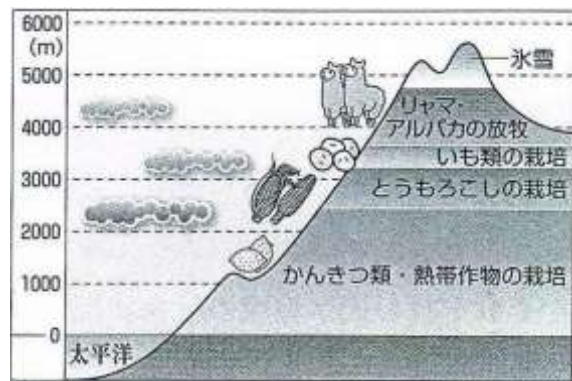
	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1学期期末試験	46.3%	50.5%	52.7%

全体的にどの観点も正答率が低い傾向にある。基本的な知識が十分に身につけておらず、資料の読み取りも不十分である。そのため、資料から読み取れる情報や、知識・概念を活用して思考・判断し、その結果を表現することは、本学級の生徒にはかなりハードルが高いものといえよう。

1学期期末試験において、特に正答率が低かった問題は以下のとおりである。

次の図のように、標高によって放牧を行ったり、栽培する作物を変えたりしているのはなぜだと考えられるか。標高と気温の関係に着目して簡潔に答えなさい。

模範解答
標高によって気温が異なり、気温にあった作物を栽培しているため。



この問題は、標高が上がるにつれて気温が下がるという概念と、それぞれの地点で作られている作物はどのような気候の地域でつくられているのかという知識を関連付けて思考し、その結果を適切にまとめるという力が試されている。したがって、知識や概念が定着していなければ解答することはできず、また、概念や知識を関連付けて活用することができなければ解答することはできない。

以上のようなことから、本学級は、知識・概念の理解・定着に課題がある生徒と、知識は理解し覚えているが、用語の暗記にとどまり、活用できる概念が身につけていない生徒が多いといえる。その背景には、小学校から続く社会に対する苦手意識と、社会に対する興味のなさがある。生徒の基本的な学力を定着させるためには、社会の学習に対する意欲を伸ばし、積極的に課題を解決しようとする姿勢をもたせる必要がある。

指導観

【本単元で育成しようとする資質・能力】

○生きて働く基礎学力

指導にあたっては、以下の点に留意して指導を行う。

1点目は、地理的な見方・考え方を意識した授業内容の精選である。学習指導要領には、地理的な見方

として、①位置や分布、②場所、③人間と自然環境との相互依存関係、④空間的相互依存関係、⑤地域の5つの見方が示されている。これらの見方について、「なぜこのような分布になっているのか」など思考することが地理的な考え方である。本単元では、①は民族、言語、宗教、農業、工業の分布について、④はアメリカや日本、中国など他の地域との関係について、⑤は地域的特色と課題について学習していく。

2点目は、生きて働く基礎学力の育成に力を入れることである。社会科においては特に生きて働く基礎学力イコール概念的知識であるといっても過言ではあるまい。用語や語句などの事實的知識と異なり、地域を越えて活用することのできる一般的な知識である概念の獲得と概念の活用ができて初めて、社会科の知識は生きて働く知識となり得るからである。また、生きて働き使える知識を身につけることができれば、生徒が社会科に対する有用感を持つことができるようになる。本単元では、「東アジア共同体の実現可能性を探ろう」という単元を貫く課題を設定し、課題解決に向けて学習していく。その際、EU結成の背景には共通の利益、共通のライバル、共通の文化という3つの条件が存在したことを資料等から読み取らせる。また、EU結成によるプラスの変化とマイナスの変化について資料から読み取らせ、このことから地域統合のメリットとデメリットを理解させる。その上で、地域統合の要件、地域統合のメリットとデメリットという概念的知識を東アジアについて活用し、東アジアの事實的知識と関連付けることによって、課題解決に迫る。その際に、米国の全米社会科協議会(NCC)の取組であるThe College, Career, and Civic Life(C3) Frameworkの原理に基づいて単元を構成し指導を行う。具体的には、単元を貫く問いとしてCompelling Question(CQ)を設定し、それを解決するためにものごとの定義や説明、過程に焦点を当てた補助発問としてのSupporting Question(SQ)を解決する学習を連続的に行う。その中で、社会科に関連する諸科学の概念やツールを利用してSQを分析したり、資料からデータを収集し、吟味するとともに自己の主張を構成したり、学習結果に基づいて実際に行動を起こしたりする活動を行っていく。また、各SQのまとめの段階では、形成的パフォーマンス評価を行い、生徒の理解を深めていくとともに、生徒の理解度を図り、必要な手立てを講じていくことを通して、最終的に確実にCQが解決できるようにしていく。

3点目は、現代社会で起きている様々な事象を取り上げながら学習を進めていくことである。生徒が社会科の学習に興味を持たない理由は、覚えることが多いわりに、生活の中で使えるという実感をもていないためであると考えられる。そこで本単元では、イギリスのEU離脱という近年注目されている出来事や、新型コロナウイルス感染症拡大によるEUへの影響、実際に議論が行われているASEAN+3による地域統合などの時事問題や社会的論争内容を取り上げて学習を進める。このことを通して、社会科で学習した内容は実際の社会を見る上で役に立つということを感じさせ、社会科の学習に対する意欲を伸ばしていきたい。

単元の目標と評価規準、資質能力の評価

【単元の目標】

EUの現状と課題について学び、ヨーロッパの自然・文化・産業等の地域的特色をふまえ、地域統合のあり方について考え、自らの意見を表現することができる。

【単元の評価規準と育成を目指す資質・能力の評価基準】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①歴史的背景、民族・言語・宗教などの文化、他の地域の国と比較した面積・人口・GDPの特色を資料から読み取り、EU結成の背景にある事実を理解し、その知識を身につけている。 ②EU結成によって、ヒト・カネ・モノの移動が自由になったことを資料から読み取り、その知識を身につけている。	①外国人労働者の流入によるメリットとデメリットについて考え、自らの意見を適切に表現している。 ②地域統合の要件、地域統合のメリット・デメリットと東アジアの特色を関連付け、東アジア共同体の実現可能性について考え、判断した理由を適切に表現している。	①ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

資質・能力の評価基準	生きて働く基礎学力		
	地域統合の3つの要件と地域統合のメリットとデメリットを理解し、課題解決のために使うことができている。		

指導と評価の計画

全5時間（本時は3／5）

次	学習内容(時数)	評価の観点			生徒の思考の流れ	評価 ◇ 評価規準 ◆ 資質・能力
		知識・技能	思考表	主体的		
1	<p>○なぜヨーロッパでは、EU が結成されたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EU 結成の歴史的背景、民族・言語・宗教の共通性、他国と比較した面積・人口・GDP の特色について理解する。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・EU は何かメリットがあるから結成されたんだろう。 ↓ ・戦争がよく起きているから平和を目指したのか。 ↓ ・言語はよく似ているし、宗教もキリスト教で同じだ！ ↓ ・1国ではアメリカ・中国・日本に勝てないけど、統合して力を合わせれば勝てるのか！ ⇒平和という共通の利益、言語や宗教など文化の共通性、アメリカ・日本など共通のライバルの存在があったから EU を結成したんだな。 ↓ ・じゃあ、他の地域でもこの条件が当てはまれば、地域統合できるのかな？ 	◇①歴史的背景、民族・言語・宗教などの文化、他の地域の国と比較した面積・人口・GDP の特色を資料から読み取り、EU 結成の背景にある事実を理解し、その知識を身に着けている。
<p><単元を貫く課題> 東アジア共同体の実現可能性を探ろう。</p>						
2	<p>○EU 結成でどんなことがよくなったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EU 結成で、加盟国間の移動はパスポート 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも EU を結成してどんなことがよくなったんだろう。 ↓ ・パスポートなしで移動でき 	◇②EU 結成によって、ヒト・カネ・モノの移動が自由になったことを資料から読み取り、その知識を身につけている。

	<p>が不要になったこと、関税が撤廃されたこと、統一通貨のユーロが導入されたことを理解する。</p>		<p>るのか！隣の国に通勤・通学もできるぞ。 ↓ ・関税がいらないから、得意分野を生かして分業をしたり、必要なものを安く買ったり、加盟国以外の地域よりも安く売ったりできるのか！ ↓ ・通貨が同じなら両替しなくてもそのまま買い物できるし、便利だな！ ⇒そうか、ヒトの移動・カネの移動・モノの移動が自由になるとこんなにいいことがたくさんあるんだな。 ↓ ・これなら東アジア共同体もいいかもな。</p>	
3	<p>○イギリスが EU 離脱したのはなぜ。(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人労働者が流入することのメリットとデメリットについて考える。 ・ギリシャの金融危機がヨーロッパ全体の問題になったこととその理由を理解する。 	○	<p>・いいことがいっぱいある EU なのにイギリスはなんで離脱したんだろう。 ↓ ・西ヨーロッパと東ヨーロッパは大きな経済格差があるんだな。 ↓ ・給料が高い国に安い国から労働者が入ってくるのか。 ↓ ・え、給料が安い国から来た人は安く雇えるの？じゃあ、経営者は安く雇える外国人労働者を雇うと人件費が安く済んでいいなあ。 ↓ ・でも、外国人に仕事を取られたら自国民の中に失業者が出るんじゃないかな・・・ ↓ ・そうか、通貨が同じということは、他国の経済危機が影響することもあるのか。 ⇒外国人労働者が入ってきて職を奪われたり、自国の責任ではない経済危機が影響してしまうこともあるな</p>	<p>◇①イギリスが EU を離脱した理由について、移民の流入、域内の経済危機の影響を受けやすくなる等の地域統合のデメリットをもとに考察し、その結果を適切に表現している。</p>

				<p>ど、デメリットもあるからイギリスは EU を離脱したんだな。</p> <p>↓</p> <p>・え、東アジア共同体もそんなデメリットがあるのか…</p>	
4	<p>○東アジア共同体の実現可能性は何%？</p> <p>・地域統合の3つの要件、地域統合のメリット・デメリットをふまえて東アジア共同体の実現可能性を考える。</p>		○	<p>・うーん、いいところもあるし悪いところもあるし悩むな…</p> <p>↓</p> <p>・東アジアにも共通の利益として平和はあるな。漢字や仏教など共通の文化もある。EU やアメリカという共通のライバルもいる。ということは、地域統合の要件は満たしているぞ。</p> <p>↓</p> <p>・メリットもたくさんあるな。でも、日本は EU みたいに陸続きや高速鉄道で行き来できる距離にはないぞ。</p> <p>・デメリットもあるな。日本に中国人がいっぱい来て、仕事が奪われるんじゃないか…でも、経営者の側では、安く商品を生産出来て、国際的な競争力も増すんじゃないかな。</p> <p>⇒このことから考えると、東アジア共同体の実現可能性は〇〇%だな。</p>	<p>◇②地域統合の要件、地域統合のメリット・デメリットと東アジアの特色を関連付け、東アジア共同体の実現可能性について考え、判断した理由を適切に表現している。</p> <p>◆地域統合の3つの要件と地域統合のメリットとデメリットを理解し、課題解決のために使うことができている。</p>
5	<p>○EU は今後どうなっていくんだろう。</p> <p>・ヨーロッパの地域的特色と課題をまとめる。</p> <p>・単元を振り返り、「何を学び、何ができるようになったか」、「新たに知ってみたいことは何か」、「今回学んだことはどのような時に役に立つか」をまとめる。</p>		○	<p>・ヨーロッパは、歴史・産業・文化など様々な背景からEU を結成し、地域統合を進めていたな。</p> <p>↓</p> <p>・地域統合でいいこともあったけど、悪いことも多かったぞ</p> <p>⇒ヨーロッパは今後、西欧と東欧の格差がさらに大きくなり、移民の流入や金融危機など様々な課題が生じるだろう。しかし、加盟国間の結びつきを強め、乗り越えていこう。</p>	<p>◇①ヨーロッパ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

本時の学習

(1) 本時の目標

イギリスが EU を離脱した理由について、外国人労働者の流入などの地域統合のデメリットに着目して考察し、表現することができる。

(2) 本時の評価規準

イギリスが EU を離脱した理由について、移民の流入、域内の経済危機の影響を受けやすくなる等の地域統合のデメリットをもとに考察し、適切に表現している。

(3) 準備物

教科書、地図帳、資料集、ワークシート

(4) 学習の展開

学 習 活 動	<input type="radio"/> 指導上の留意事項 <input checked="" type="radio"/> 配慮が必要な生徒への支援	<input type="checkbox"/> 評価規準 <input checked="" type="checkbox"/> 資質・能力 (評価方法)
1. 既習事項の復習【5分】		
<input type="radio"/> 地域統合のメリットを振り返る。 ・移動の自由 ・関税の撤廃 ・統一通貨ユーロの導入	<input type="radio"/> 地域統合によって移動の自由、関税に撤廃、統一通貨ユーロの導入が行われ、ヨーロッパにとってプラスの影響があったことを強調する。	
2. めあての確認（本時の課題発見）と予想【5分】		
<input type="radio"/> イギリスの EU 離脱を風刺したイラストから課題を発見し、めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 【めあて】 なぜイギリスは EU を離脱したのだろうか？ </div>	<input type="radio"/> メリットが多くあるにもかかわらず、イギリスが EU を離脱したことを強調することで、EU 離脱について強い疑問と問題意識をもたせた上でめあてを提示する。	
<input type="radio"/> イギリスが EU を離脱したのはなぜか予想を立てる。	<input type="radio"/> 予想を立てることが課題解決の第一段階であることを強調し、積極的に予想を書かせる。	
3. 資料を基にイギリスが EU を離脱した理由を考える（課題解決）【30分】		
<input type="radio"/> 資料から EU における経済格差と東欧諸国から西欧諸国への移民流入の現状を読み取る。	<input type="radio"/> 資料集 p 59 の図 6～図 9 を用いて情報を読みとらせる。その際、西ヨーロッパと東ヨーロッパを比較した違いに着目させる。 ・西ヨーロッパと比べて、東ヨーロッパは 1 人当たり GNI が低い国が多い (図 6) ・古くからの加盟国である西欧諸国に比べ近年加盟した東欧諸国は最低賃金が低い (図 7) ・東欧諸国と比べて西欧諸国は工業が盛ん	

<p>○移民が流入することの影響を考え、結論を出す。 (個人→班→全体)</p>	<p>である (図8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東欧諸国から西欧に諸国に移民が流入している。(図9) ・高賃金を求めて東欧諸国から西欧諸国へ移民が流入している。 ・移民の流入には、ヒトの移動が自由であるというEUの特色が大きく関係している。 <p>●西欧，東欧で比較するのではなく，イギリスとブルガリアの2か国の違いを比較させるなど視点を絞る。</p> <p>○移民が流入することの影響とEUの国境を越えた移動が自由であるという点から，イギリスがEUを離脱した理由を考えさせる。</p> <p>●経営者の立場や自国の労働者の立場などの具体的な立場を示して考えさせたり，日本に賃金の安い国から移民がやってきたらどうなるかを考えさせたりするなど，考える視点を示す。</p>	
<p>4. 学習のまとめと振り返り【10分】</p>		
<p>○まとめを書く。</p> <p>○振り返りを書く。</p>	<p>○発表内容を参考に，イギリスがEUを離脱した理由を書かせる。</p> <p>○①本時の授業で学んだこと，②新たに知ってみたいこと，③本時の授業は，どのような場面で役に立つかについてまとめさせる。</p>	

板書計画


めあて なぜイギリスはEUを離脱したのだろうか？

地域統合のメリット

- ・ 移動の自由
- ・ 関税の撤廃
- ・ 統一通貨ユーロの導入

⇒ 経済成長・平和

but イギリスはEU離脱



仮説

- ・ 何かの政策をめぐって対立したから。
- ・ EUに加盟することのメリットを感じなくなったから。
- ・ EUに加盟することのデメリットが大きくなってきたから。

結論

情報収集

